

平成 30 年 8 月 22 日

第 1 回有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅と医療・行政との 連携に関する意見交換会 実施要項

1. 目的：地域包括ケアシステムにおいて重要な役割である有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅の経営者及び管理者が医療・行政との意見交換を通し、関係づくりを行うこと
2. 主催：那覇市在宅医療・介護連携支援センター ちゅいしーじー那覇
那覇市ちゃーがんじゅう課
3. 対象：那覇市内の有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅の経営者及び管理者
4. 日時：平成 30（2018）年 8 月 22 日（水）
受付 14：30～ 開始 15：00～17：00
5. 場所：那覇市医師会・4 階ホール
〒900-0034 沖縄県那覇市東町 26-1 電話 098-860-5666

次 第

14：30～15：00 受付

15：00～15：05 オリエンテーション 開会

15：05～15：20 ミニレクチャー

テーマ：「これからの医療・介護連携について」

講 師：嘉数 朗 氏（那覇市医師会 在宅医療・地域包括ケア担当理事）

15：20～15：30 名刺交換・アイスブレイク

15：30～16：30 グループディスカッション

テーマ：「介護現場において医療・行政との連携について困っていること」

16：30～16：50 全体共有

16：50～16：55 アンケート 閉会

平成 30 年 8 月 22 日
第 1 回有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅と医療・行政との連携に関する意見交換会
参加施設

50 音順

1	有料老人ホーム	かさぐるま
2	サービス付き高齢者住宅	かみはら
3	有料老人ホーム	くもじ
4	有料老人ホーム	グリーンハウス首里
5	有料老人ホーム	くれいん
6	有料老人ホーム	ちゅら風 2 号館
7	有料老人ホーム	ちゅら風 本館
8	グループホーム	なけ〜ま原
9	介護付有料老人ホーム	ひまわり
10	有料老人ホーム	ふれあい老人ホーム国場
11	有料老人ホーム	ペリー館
12	サービス付き高齢者住宅	萬願
14	サービス付き高齢者住宅	みらい
15	有料老人ホーム	メディケアハウス寄宮
16	特別養護老人ホーム	和（なごみ）
17	サービス付き高齢者住宅	開南ハピヒルズ
18	有料老人ホーム	願寿の家
19	有料老人ホーム	憩いの里首里センター
20	有料老人ホーム	健寿の杜
21	有料老人ホーム	三原の家
22	有料老人ホーム	生協 安謝ハウス
23	有料老人ホーム	西町
24	有料老人ホーム	石嶺
25	有料老人ホーム	大道中央
26	有料老人ホーム	日和
27	有料老人ホーム	牧志
28	有料老人ホーム	民主診療所
29	サービス付き高齢者住宅	琉球の街 繁多川
30	サービス付き高齢者住宅	琉球の街 真嘉比
31	有料老人ホーム	和合

平成 30 年 8 月 22 日
第 1 回有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅と医療・行政との連携に関する意見交換会
グループ発表

Aグループ

テーマは、「外部サービスを入れる判断基準」と「介護人材確保」とした。

外部サービスに関して

訪問診療、訪問看護、訪問リハビリについて、施設として適切に導入しているかとの問いに、利用者のニーズに応じて導入しているという意見が多かった。訪問診療を入れることで家族との関係が希薄にならないかとの意見もあったが、以前より家族面談は増えている。入居者の約 20%の家族が毎日来て何らかの介助、食事介助などを行っており、家族との関係性が希薄になることはないとの意見もあった。

訪問看護に関しては、入居者の 10～15%は導入しているとのことであった。

訪問リハビリに関しては、デイケア、デイサービスにて PT 評価、機能訓練を実施しているため、必要性を感じていないとのことであった。

介護職員の確保に関して

研修など教育を実施する前に、オリエンテーションによって介護は楽しいと感じてもらふことや、実際高齢者に触れさせてみるのが大事ではとの意見があった。

対応策

どの施設も介護職は全然足りていない。それは、根底に介護のイメージが良くないことがある。介護殺人など悲惨な事態をニュースで聞く。根本的に介護のイメージを変える CM を行政と時間をかけて取り組む必要がある。現状を変えていきたい。

Bグループ

テーマは、「介護人材不足」、「医療との連携が図れない」、「行政との関わり」とした。

介護人材について

どの施設も悩んでいる。そこで行政にイメージアップの PR ビデオを制作してほしい。宣伝効果でどうにか人材を集めたい。

また、処遇について、法人に任せてほしいとの意見があった。

医療連携について

夜間の急変時、訪問診療へ連絡することがあるが、すぐに搬送してくださいと返答がある場合がある。救急車が到着すると救急隊から施設職員に救急車に乗るよう要望があるが、施設側は人手不足で乗れない事情がある。そのやり取りで時間的ロスがある。

対応策

有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅の横の繋がり集まり、救急隊も参加し、搬送に対するルール作りを行っていききたい。

行政に対しては、生活保護受給者に関して、高齢に伴い医療・介護のニーズが高まると生活面で費用がかかることを考慮してほしい。例えば嚥下障害がある場合、トロミ剤は自費で購入するため生活費を圧迫する。医療・介護ニーズに応じた生活扶助をお願いしたい。

Cグループ

テーマは、「医療・介護連携で困っていること」とした。

コミュニケーションについて

連携がうまくいかないのは、コミュニケーションが図れないことにある。医師の説明は専門用語が多く訊くことができず、互いの話が円滑にいかないと感じている。

入退院連携においても、情報伝達、連携がうまくいっていないケースがある。速やかに退院し、すぐに再入院となる場合、情報収集、伝達が追い付かない。

また、訪問診療について、夜間帯に病状が悪化し往診を相談したが、自院に連れて来てくださいとの対応であったため困ったことがある。

対応策

コミュニケーション不足のままでは連携は一向にうまくいかない。言語の違いを乗り越えるために我々がしっかり医療的知識を身に付け高めること、また施設側の事情、体制をしっかりと伝える努力が重要ではないか。

病院に対しても施設の事情、体制を伝えて理解してもらう努力をし、こまめに互いの情報を確認し合うこと。施設が困っていることをしっかりと伝えるようにしていきたい。

また、訪問看護を導入し、訪問診療と施設の間に看護師に間に入ってもらうことで情報伝達がスムーズにいく方法もあるとの意見があった。

重要なことはお互いを知ることであるとのまとめとなった。

Dグループ

テーマは、「人材確保、定着」とした。

スキルアップによるモチベーションアップ

スキルアップをしていきたいが、研修の時間がない、人がいなくなるので研修ができないとの意見があった。一方で、施設職員の年間スケジュールに2カ月に1回外部講師を迎えての研修時間を確保している施設もあった。

吸引資格

吸引資格を研修で学ぶが、現場に落とし込むときに実際は研修のようにできない、時間がかかるなど、現場と研修内容とのギャップで悩むことがあると意見が挙げられた。

対応策

施設側は、定期的な研修の実施ができるよう、また、研修後のフォローアップでスキルアップを図っていきたい。特に看取りに関して、看取りの怖さを解消するために、医師に研修を実施してほしい。看取り後のデスカンファもやっていきたい。

行政には、吸引資格を取得するにあたり、研修費が高額であるため、費用負担の援助を頂けると大変助かる。

また、行政へ色々相談したいことがあるが、壁があり、どう声かけていいかわからないとの声が多数あった。例えばカフェのスペースを設置して頂き、和みやすい雰囲気をつくってほしい。また、施設担当、地域担当がいれば、直接声をかけられると思う。

他に、施設からどのような内容の相談があるのか知りたい。Q&Aがあると良い。

Eグループ

ディスカッションが中心であった。「外部サービスの導入」と「看取り」をテーマとした。

外部サービスの導入

外部サービスの導入は経営的な目線で成り立つのか。腹を割った話し合いから始まった。利用者の意向やケアに沿った導入ができていると答えた施設がほとんどであった。介護支援専門員からも総合的に施設、家族の意向を判断して導入を行っているのではないかと意見であった。

夜間、看護師がいない施設が殆どであるが、訪問看護の導入により重症度の高い患者の対応から看取りに至った施設の話があった流れで看取り対応についての議論となった。

看取りの実施

実際看取りを実施している施設、これから実施を検討している施設が半々であった。

看取りを実施していない施設の恐怖感は何なのか。看取りを実施している施設は何をいいと感じているか意見交換をした。まず、施設のハード面において、看取り前に個室スペースの確保が必要か、また、隣の入居者に不幸があったことを他の入居者にいつどう伝えるか、オープンにしてよいものなのか、という声があった。それに対し、看取りを実施している施設より、オープンに話し合っている現状であるとの回答があった。

また、介護職の負担軽減のため、夜間はナースオンコールとし、何かあった場合は、看護師と施設長が駆けつける。お見送りは職員全員で対応するという施設もあった。

中には、看取りを中心的に実施するため、重度の入居者を積極的に受け入れている施設があった。看取りが前提となるため、介護職もそのスキル、介護力を上げる目的で入職して頂きたいと入り口の段階で説明し、スキルアップに取り組んでいるとのことであった。

対応策

今後もこのような意見交換を通して、他の施設の対応、良いところも学び真似し合いながらあらゆる意見を取り入れたい。

Fグループ

テーマは「職員の人材育成」と「看取りの導入」とした。

どういうスキルアップの方法があって、そこから看取り導入に繋がられるか話し合った。

人材育成

スキルアップとして、ベテラン職員から毎回課題を決めてショートミーティング(勉強会)を実施すること、また、何ができて何ができないかの評価チェックを実施することが挙げられた。

対応策

看取りに関しては、施設職員の気持ちが重要である。不安をいかに解消するか、例えば、管理者によるの夜のフォローであったり、声を掛け合う等チームワークでの対応、看取り勉強会により「看取りは怖くない」ことを共通認識とする。

また、入居相談時から家族がどう最期を迎えたいかというニーズをしっかりと受け止め、職員と共有しておくことが大事である。

医療側には、訪問診療の先生方に勉強会の実施をお願いしたい。また、訪問看護を早めのタイミングで導入することで、看取りが可能になるのではないかと考える。

行政側にはこのような連携のための勉強会を引き続きお願いしたい。

那覇市福祉部 チャーがんじゅう課 山口 芳弘 課長

実りある意見交換であった。現場で奮闘しているみなさんの課題、困っていることを直接聞くことがこれまでなかったので大変勉強になった。

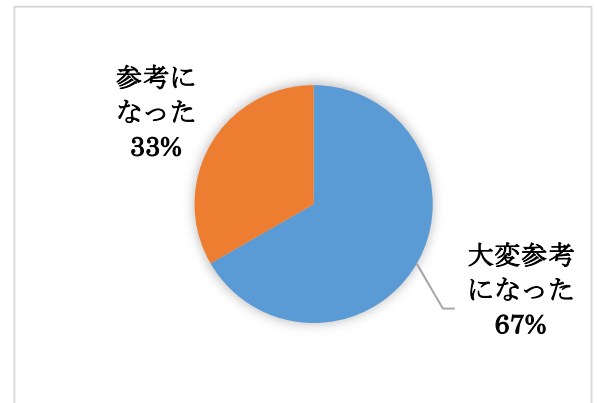
短い時間で課題を洗い出して対応策を検討するなかで、行政に関わる部分が多くあった。救急搬送や生活保護費の件など、現場の生の声を持ち帰って、できることできないことはあるが、検討の材料とさせて頂きたい。医療、施設 行政と立場と役割の違いはあるが、高齢者福祉の向上に取り組むという点は同じである。できる限りサポートしていきたい。

平成 30 年 8 月 22 日
第 1 回有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅と医療・行政との連携に関する意見交換会
アンケート集計

参加施設：29 施設 参加者：40 名、アンケート回答者：36 名 回収率 90%

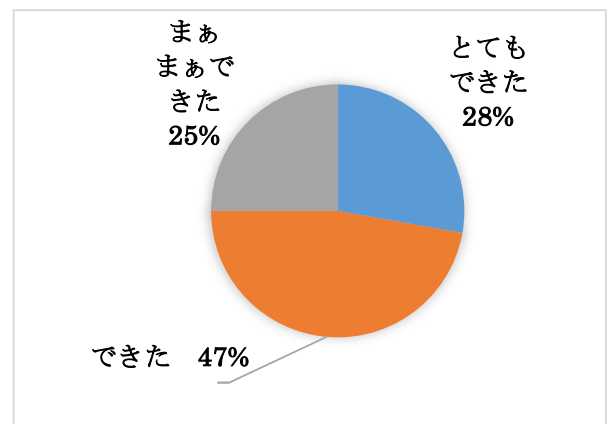
1) 意見交換会全体として

選択肢	数	%
大変参考になった	24	67%
参考になった	12	33%
まあまあ参考になった	0	0%
あまり参考にならなかった	0	0%
無回答	0	0%
計	36	100%



2) 自身の意見を自由に発言できましたか

選択肢	数	%
とてもできた	10	28%
できた	17	47%
まあまあできた	9	25%
あまりできなかった	0	0%
無回答	0	0%
計	36	100%



3) 意見交換会でお伝えできなかったことがありましたら自由にご記載下さい。

【介護職について】

- ・介護人材不足
- ・介護人材の教育方法
- ・処遇について

【看取りについて】

- ・看取りをするうえでホーム管理者と会社の意見の違い
- ・終末期同意書について情報交換をしたかった。
- ・看取り期は、主治医及び訪問診療の医師がご家族へしっかり説明をして頂くことから始まりである。

【連携について】

- ・医療との連携（2週間に一度往診に来てもらっているものの、なかなか生活状態が伝わりにくいことあり）
- ・介護保険と医療保険の連携が包括システムに必要なと思う。今後、包括システムを進めて実践していくうえで、制度連携が課題になるかと思う。

【その他】

- ・訪問診療の発信について
- ・訪問診療で来て頂く時、住宅型老人ホームに看護師がいらないため、デイサービスの看護師が対応しているが介護職にでも説明できるようにしてほしい。

- ・喀痰吸引等の資格取得のための研修を年1回のみでなく、年3回位に増やしてほしい。
- ・薬の管理等について
- ・感染症対策
- ・医療法人として夜間時他法人の入院、外来受診の受け入れ

4) 今後取り上げてほしい内容やテーマについて

- ・看取りについて（8件）
- ・介護の人材育成について（4件）
- ・急変時対応について（3件）※救急隊を交えたディスカッション
- ・行政との連携、意見交換（2件）
- ・人材確保
- ・倫理について
- ・介護報酬
- ・サ高住はどこまで行うことが妥当か・・・（スタッフが行うべき業務内容）
- ・今後医療ニーズが増段する中で、吸引や経管栄養を受ける利用が増える
- ・訪問診療、訪問歯科診療、法令遵守、補助金や助成金の情報活用方法
- ・施設で揃えておくべき必要書類
- ・特定施設以外で経営している意見交換会があればいい
- ・高齢者住宅の団体を作る
- ・有料老人ホームの相部屋について。指導のみでいいのか？

5) 介護職を対象とした研修会を実施する場合、参加しやすい時間帯

	月			火			水			木			金			土		
時間帯	AM	PM	夕方	AM	PM	夕方	AM	PM	夕方	AM	PM	夕方	AM	PM	夕方	AM	PM	夕方
第1週																		
第2週																		
第3週																		
第4週																		

施設数 1～3件 4～6件 7～9件 10以上

- ・水曜日の午後が参加しやすい時間帯と答えた施設数が最も多い。

6) 全体を通しての意見・感想(原文のまま)

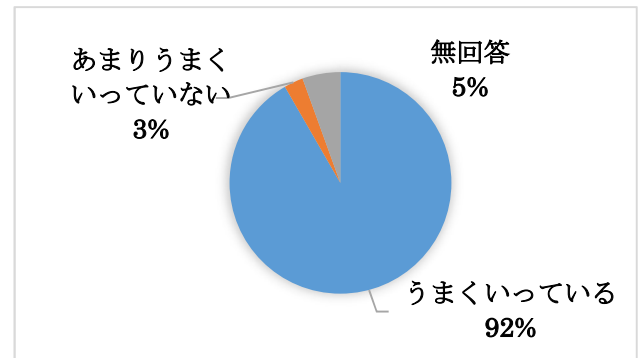
- ・色々な話が聞けて良かった。
- ・有意義な時間でした。また開催して頂きたいです。
- ・今回の延長で継続的に実施してほしい。
- ・他施設の話聞き、良いところを取り入れたいと思いました。とてもいい機会でした。
- ・他事業所の取り組みや行っていることが分かり良かったです。
- ・年に3～4回このような機会があったら良いですネ。
- ・看取りのリスクをなくすためにどうすればいいのか、確認ができた。今後第2回もしてほしい。
- ・2回目の開催をお願いします。
- ・とても参考になり、こういった場が今後も続いて私たち職員も多く参加していきたいと思いました。
- ・とても参考になりました。
- ・他施設との情報交換の場にもなり、今後も役立てることができそうなので、何回でも開催してほしい。
- ・他施設の方と意見交換する機会がなかったので、とても良い経験になった。横でのつながりを広げようと思った。
- ・大勢での話し合い、意見を出すことで色々な対応、対策の仕方があったのでとても勉強になった。
- ・とても良い時間を過ごせました。もっと長く色々話したかったです。また参加したいです。

- ・他事業所との関わりがもてて良かった。
- ・今回の意見交換会で色々と勉強になりました。介護側、医療側の意見が聞けて良かったです。
- ・那覇市内の有料老人ホームの情報を交換した内容を文章化して参加できなかった施設にも渡してもらえたら嬉しい。
- ・とても良い会だと思います。
- ・他施設の方々の話を聞いてとても参考になりました。
- ・他施設の方、多職種の方と話ができ、考えが聞けたので良い経験になりました。開催する側は大変だと思いますが定期的に開催してほしいです。
- ・他職種との意見交換の場が何度かあると助かります。
- ・他施設の方と顔を合わせて話し合うことがこれまでなかったのもとても有意義でした。次回は、各施設に話し合いたいことを事前に募ってほしいです。
- ・今日は勉強になりました。この場を設定して下さった医師会、ちゃーがんじゅう課へ心より感謝致します。
- ・行政の方と顔の見える関係を作っていくためにもこのような機会がとても大事だなと思いました。開催まで大変だったと思います。お疲れ様でした。
- ・行政の方も積極的に参加されても良かったかなと思います。
- ・民間・行政・医療とが一体となって話せる場が欲しかったので良かった。
- ・数ある集まりの中で、ちゃーがんじゅう課の参加は意義あるものと思います。グループディスカッションにも入って頂き、市役所の外で率直なやりとりが出来たら良かったです。
- ・行政との関わりの部分に関し、あまり情報を持っていないです。サービス付き高齢者住宅に対し行っている事業などありましたら情報発信を活発に行って頂けるとありがたいです。
- ・色々な意見がありすぎて、時間が少しもの足りないような感じがします。
- ・訪問看護や診療の先生側の意見も聞きたかった。
- ・様々な施設や専門職の意見が聞けて良かったです。同じ特定施設入居者生活介護事業所の意見も聞きたかった。
- ・訪問診療医の紹介を医師会の方でお願いしたい。

2. かかりつけ医師、ケアマネジャーとの連携について

1) 入所者のかかりつけ医との連携について

選択肢	数	%
うまくいっている	33	92%
あまりうまくいっていない	1	5%
無回答	2	3%
計	36	100%



2) アドバイザーとなる連携医療機関はありますか。

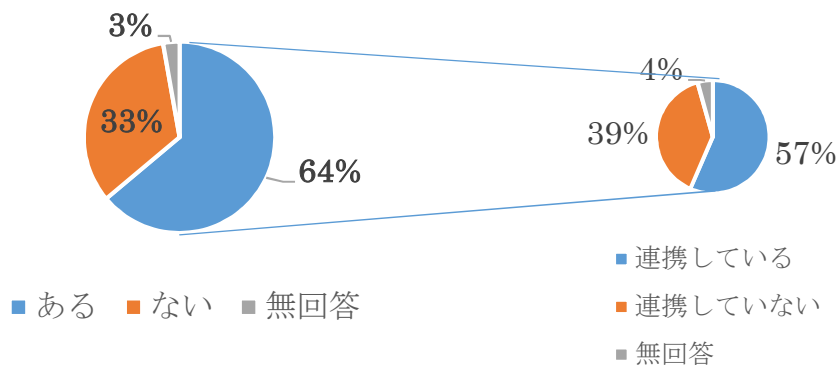
選択肢	数	%
ある	23	64%
ない	12	33%
無回答	1	3%
計	36	100%

2) -2「ある」と回答された方 アドバイザーとなる医師と定期的に会議等連携をしていますか。

選択肢	数	%
連携している	13	57%
連携していない	9	39%
無回答	1	4%
計	23	100%

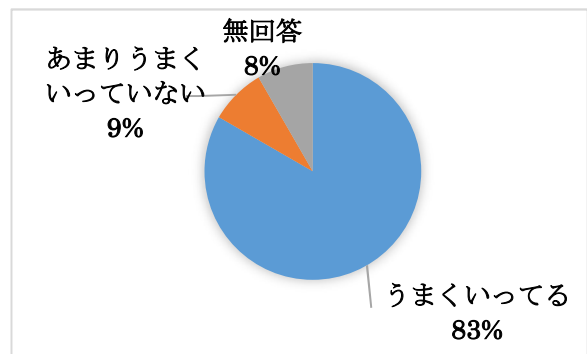
2) アドバイザーとなる連携医療機関はありますか。

2) -2「ある」と回答された方 アドバイザーとなる医師と定期的に会議等連携をしていますか。

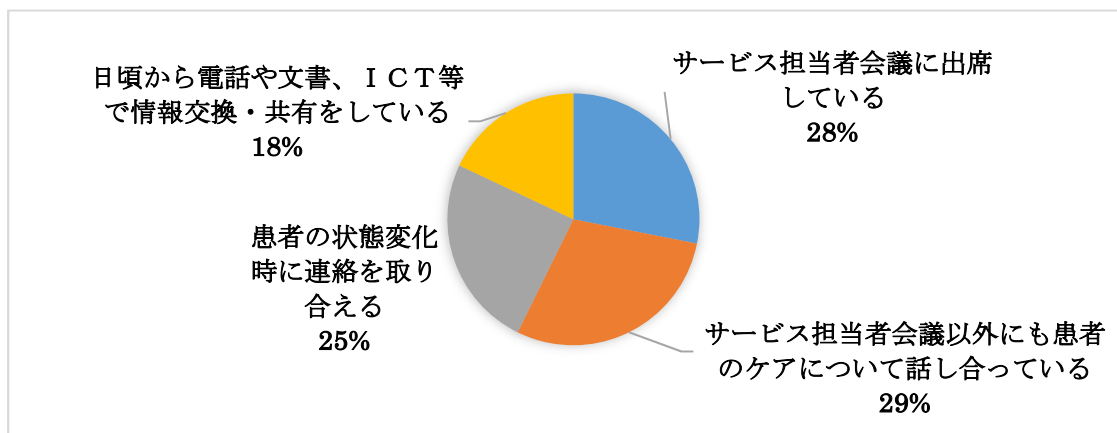


3) ケアマネージャーとの連携について

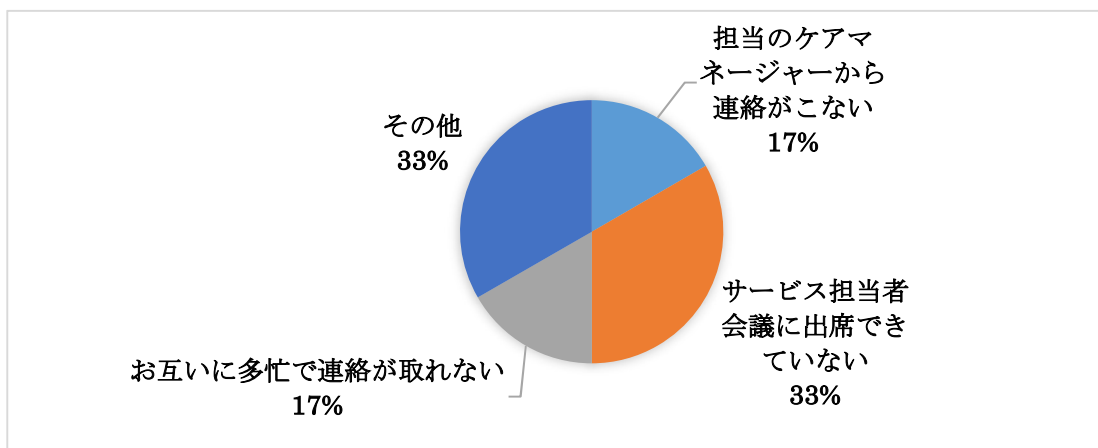
選択肢	数	%
うまくいっている	30	83%
あまりうまくいっていない	3	9%
無回答	3	8%
計	36	100%



3) -2 「うまくいっている」と回答された方 理由は何ですか。



3) -3 「うまくいっていない」と回答された方 理由は何ですか。



平成 30 年 8 月 22 日
第 1 回有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅と医療・行政との連携に関する意見交換会
アルバム



平成 30 年 8 月 22 日
第 1 回有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅と医療・行政との連携に関する意見交換会
アルバム



平成 30 年 8 月 22 日
第 1 回有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅と医療・行政との連携に関する意見交換会
まとめ

グループディスカッション「介護現場において医療・行政との連携について困っていること」
で挙げられた主な課題

- 1) 介護人材が不足している。育成が困難。
- 2) 医療との連携（急変時の対応、夜間対応、コミュニケーション）が困難。
- 3) 行政との連携
- 4) 看取りの実践



発表で挙げられた主な対応策

- 1) 介護人材確保、育成
 - *介護のイメージを変える CM の製作
 - *オリエンテーション、スキルアップのための時間を確保する
- 2) 医療との連携（急変時の対応、夜間対応、コミュニケーション）
 - *救急搬送時のルール作り（行政、消防署と共に）
 - *医療的知識のスキルアップでコミュニケーション力を上げる
 - *訪問看護の導入（医療との情報伝達がスムーズに図れる）
- 3) 行政との連携
 - *喀痰吸引研修の援助を求めたい
 - *和みやすい雰囲気をつくってほしい
 - *施設と行政の Q&A があると良い
- 4) 看取り
 - *怖さ、不安を解消するためのフォローやチームワーク
 - *医療的知識の学習会
 - *訪問看護の早期導入

有料老人ホーム・介護付き高齢者住宅が実施している好取り組み

- オリエンテーションや職場体験を通して介護の楽しさを伝えている。
- 年間スケジュールに外部講師を迎えての研修時間を確保している。
- テーマを決めて介護ベテラン職員によるショートミーティングを実施している。

それぞれの課題は連動しているため重複しています。主な共通項目として①介護職へ向けた学習会の必要性、②訪問看護導入の検討、③救急搬送時のルール作り等が挙げられました。今回の意見交換会を踏まえて、今後皆様と共に課題の解決に向けた取り組みを実施して参ります。ご意見やご要望等、ご相談がありましたら下記までご連絡ください。

またの開催で、多くの皆様とお会いできますことを楽しみにしております。



那覇市在宅医療・介護連携支援センター ちゅいしーじー那覇

〒900-0034 沖縄県那覇市東町 26 番地 1 号（一般社団法人那覇市医師会内）

TEL：098-860-5666（直通） FAX：098-860-5667

Email：z1@naha-med.or.jp

月曜～金曜（土・日・祝祭日を除く）、午前 8 時 30 分～午後 5 時 30 分